

異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

和歌山県からインド・マハラシュトラ州に派遣されている大西と申します。私はマハラシュトラ州の州都であるムンバイで働いています。これまで和歌山県の事務所はオーランガバードという街にありましたが、2017年よりムンバイに新たな事務所を開設しました。

ムンバイに赴任して早々驚いたのが、こちらの人々のクリケット熱です。ムンバイをホームタウンとするクリケットチームがあり、試合のある土曜日になるとユニフォームを着た多くのサポーターが、太鼓をたたき歌いながらスタジアムに駆け付けます。日本のサッカーや野球の試合さながらです。

また、電器店に展示されているテレビにクリケットが放送されていると、テレビを囲むように人だかりができ試合展開に一喜一憂しています。さらに、貧富の格

差の大きいインドでは、ホームレスの方でもスマートフォンを持っていることがあります。夜間路上でインターネット放送が見られる1台のスマートフォンを数人で囲んでいる光景も目にします。試合のある日は貧富に関わらずムンバイ中の人々が熱狂します。赴任前に、インド人が熱狂する3つのモノは「クリケット、 Bollywood、 政治」であると聞いたことを思い出しました。

インドのプロのクリケットリーグは、インディアン・プレミアリーグ (IPL) と言われ、世界中のトップ選手が集まる世界最高峰のリーグです。しかし、歴史的・政治的背景から隣国パキスタンの選手は受け入れられないようです。このIPLで活躍するトッププレーヤーは、年収20億円を超えられています。このようなトッププレーヤーを目指して、インドの路地や空き地では子供たちがバットとボールを持って遊ぶ光景が至る所で見られます。



クリケットスタジアムの入口



広場でクリケットをする人々

インドはこのようにクリケットが大好きすぎる国民で、代表チームは世界ランキング1位の強豪です(2018年2月時点)。しかし、国民がクリケットにだけ熱中するあまり、インドは世界2位の13億人を抱える超大国であるにもかかわらず、他のスポーツの成績はあまり良くありません。前回のリオデジャネロ五輪で獲得したメダルはわずか2個だけです。

インドがスポーツの国際大会で結果を出せない要因は、2つあると言われています。一つは、先述の通り、他のスポーツに関心を寄せ付けないクリケットの存在。もう一つの理由は、カースト制度と言われています。特に地方では異なるカーストの人々が同じスポーツをすることに抵抗感があり、スポーツの発展を妨げる要因になっていると言われています。また貧困により、子供たちにはスポーツより勉強または労働を優先させる親が多いようです。

しかし、モディ首相が就任して以降、数年前からさまざまなスポーツ振興や選手強化の政策が行われています。インドは東京オリンピックで二桁のメダル獲得を目標にしているそうです。東京オリンピックでは、インド代表の選手たちの活躍にも期待をしたいと思います。

〈大西辰典(平成30年4月よりインド・ムンバイに派遣中)〉